発音記号の早見表 母音（短母音・あいまい母音・長母音・二重母音）

記号		キーワード	音のめやす	よくあるつづり（例）	口のコツ
/æ/		apple	アとエのあいだ	a ax、au laugh	「エ」の口から、あごをぐっと下げて口を横にも大きく開け、「ア」と言う。舌先は下の前歯のうらにつけたまま、舌の前のほうを低く。日本語の「ア」より前寄りで明るく、アメリカ英語ではのびて「エァ」のように聞こえることも多い。
/e/		egg	エ	e bed、ea head、a many、ai said	日本語の「エ」に近いが、あごを少し下げて口をやや大きく開け、力をぬいて短く言う（アメリカ英語では [ɛ] と書くこともある、少しだけ「ア」寄りのエ）。
/ɪ/		igloo	イとエのあいだ	i in、e enjoy、a orange、y gym	日本語の「イ」より舌と口の力をぬき、あごをほんの少し下げて短く言う。口は横に引かない。「イ」と「エ」のあいだのように聞こえる。ee /iː/ とは長さだけでなく音色（口の構え）もちがう。
/ɑ/		octopus	大きなア	o ox、a swan、ow knowledge	あくびのように口をたてに大きく開け、舌を低く奥に下げて「アー」。くちびるは丸めない。アメリカ英語の hot, father の母音（イギリス英語の hot はくちびるを丸めた別の音 /ɒ/）。
/ʌ/		umbrella	短いア	u up、o oven、a was、ou young	口を軽く開け（日本語の「ア」よりやや小さめ）、力をぬいて短く「ア」。舌はまん中あたりの高さ。おなかを軽くポンと押されたときに出る「アッ」に近い。cut, sun のように強く読む音節に出る。
/ʊ/		book	短いウ	oo book、u put、ou could、o wolf	くちびるを軽く丸め（/uː/ ほどつき出さない）、舌と口の力をぬいて短く「ウ」。日本語の「ウ」より少しだけ「オ」寄りに聞こえる。book, put の母音。
/ə/		banana	よわいア	a sofa、e oven、o lion、u cactus	口も舌も力をぬいて、あいまいに短く弱く「ァ」。強く読まない音節だけに出る音で、つづりは a, e, i, o, u のどれにもなる（about, taken, pencil, lemon, circus）。英語でいちばん多い母音。
/eɪ/		cake	エイ	a baby、ai nail、ay day、ei eight	「エ」から「イ」の方向へ、なめらかに口をせばめる二重母音。「エ」を強く長めに、「イ」は軽く。日本語の「エー」のようにのばしっぱなしにしない（cake は「ケーキ」より「ケイク」に近い）。
/iː/		tree	イー	y baby、ee bee、ea sea、e video	舌の前のほうを上あごに近づけ、口を横に引いて長く「イー」。日本語の「イー」より少し力を入れた、張った音。ship の /ɪ/ とは長さだけでなく口の構えもちがう。
/aɪ/		kite	アイ	i ice、y by、igh high、ie pie	口を大きく開けた「ア」から「イ」の方向へすべらせる二重母音。「ア」を強く長めに、「イ」は軽く添えるだけ（「ア・イ」と2つに分けない）。
/oʊ/		boat	オウ	o no、ow bow、oa coat、ough dough	くちびるを丸めた「オ」から、さらにすぼめて「ウ」の方向へ動かす二重母音。日本語の「オー」のようにのばしっぱなしにすると、ball や bought の /ɔː/ に聞こえやすい（boat は「ボート」より「ボウト」）。

家庭・教室での印刷は自由です（再配布・販売はご遠慮ください）

発音記号の早見表 母音のつづき（二重母音・R のついた母音）

記号		キーワード	音のめやす	よくあるつづり（例）	口のコツ
/uː/		moon	ウー	oo zoo、ew new、u tube、ue glue	くちびるを小さく丸めて前につき出し、舌の奥を上あごに近づけて長く「ウー」。日本語の「ウ」はくちびるをあまり丸めないので、それよりずっとしっかり丸める。
/juː/		cube	ユー	u use、ue rescue、ew few、uu vacuum	/j/（「イ」の口）から /uː/ へ。アルファベットの U の名前と同じ「ユー」。後半はくちびるをしっかり丸めて前に出す。cube, music の u。
/aʊ/		cow	アウ	ou out、ow cow、ough bough	大きく開けた「ア」から、くちびるを丸めながら「ウ」の方向へすべらせる二重母音。「ア」を強く長めに。痛いときの「アウッ」（ouch!）に近い。
/ɔɪ/		boy	オイ	oy boy、oi oil	くちびるを丸めた「オ」から「イ」の方向へすべらせる二重母音。「オ」を強く長めに、「イ」は軽く。「おーい」の「オイ」に近い。
/ɔː/		saw	オー	a all、aw saw、au sauce、o dog	口をたてに開け、くちびるを少し丸めて「オー」。日本語の「オ」より口を大きく開け、形を変えずにのばす（/oʊ/ のように「ウ」へ動かない）。アメリカの広い地域では /ɑ/ と同じ音で言う人も多い（cot と caught が同じ発音になる）。
/ɑːr/		car	アーr	ar car、ear heart	口をたてに大きく開けた「アー」から、舌を R の形（舌先を少しそらせる、または舌の奥を盛り上げる）にして R のひびきで終える。舌先はどこにもつけない。「アール」と「ル」を言わない（イギリス英語では R を発音せず「アー」）。
/ɔːr/		fork	オーr	or corn、ar warm、ore more、oor door	くちびるを丸めた「オー」から、舌を R の形にして R のひびきで終える。舌先はどこにもつけない。「オール」と「ル」を言わない。
/əːr/		bird	ア〜r(こもる)	ur fur、ir bird、er mermaid、or worm	口はあまり開けず、はじめから終わりまで舌を R の形（舌先を少しそらせる、または舌の奥を盛り上げる）にしたまま「アー」。くちびるも少し丸まる。母音と R がひとつにとけた音で、「ア」のあとに R をつけるのではない。日本語にない音。
/eər/		chair	エアr	air air、are share、ere there、ear bear	「エ」から R のひびきへなめらかにすべらせる。舌先はどこにもつけない。「エアー」と「ア」をはっきり言ったり、「ル」をつけたりしない。
/ɪər/		ear	イアr	ear ear、eer deer、ere here	「イ」から R のひびきへなめらかにすべらせる。舌先はどこにもつけない。「イアー」と「ア」をはっきり言ったり、「ル」をつけたりしない。

この表の記号について 日本の英和辞典で広く使われる簡略表記です。r は簡略に /r/ と書いています（精密には [ɹ]）。happy の語末の y は /iː/ と書いています（辞書によっては /i/）。「音のめやす」のカタカナは近い音の手がかりで、同じ音ではありません。必ずサイトの音声で確かめてください。「よくあるつづり」は、サイト収録の 2,220 語で多い順です。

家庭・教室での印刷は自由です（再配布・販売はご遠慮ください）

発音記号の早見表 子音 ①

記号		キーワード	音のめやす	よくあるつづり（例）	口のコツ
/p/		pig	プッ	p up、pp apple	くちびるを閉じて息をため、パッと開いて破裂させる。のどはふるわせない（無声）。語のはじめや強い音節のはじめでは強い息（帯気）がいっしょに出て、口の前のティッシュがゆれる。spin のように s のあとでは息は弱くなる。
/b/		ball	ブッ	b by、bb bubble	p と同じく上下のくちびるを閉じ、のどをふるわせながら（有声）パッと開く。息は p より弱い。「ブ」の「ウ」をつけない。
/t/		tiger	トゥッ	t ant、tt otter、ed jumped	舌先を上の前歯のうしろの歯ぐきにつけて息を止め、パッと離す。のどはふるわせない（無声）。語のはじめや強い音節のはじめでは強い息（帯気）が出る。日本語のタ行より舌が少し後ろ（歯ぐき）につく。アメリカ英語では water, city のように母音にはさまれると、軽くはじく「ラ」に近い音（フラップ）になる。
/d/		dog	ドゥッ	d bed、dd add、ed played	t と同じく舌先を上の歯ぐきにつけ、のどをふるわせながら（有声）パッと離す。「ド」の「オ」や「ドゥ」の「ウ」をつけない。
/k/		kangaroo	クッ	c cat、k ask、ck duck、q quiz	舌の奥を上あごの奥のやわらかいところ（軟口蓋）につけて息を止め、パッと離す。のどはふるわせない（無声）。語のはじめや強い音節のはじめでは強い息（帯気）が出る。
/g/		goat	グッ	g go、gg egg、gu guitar、gh ghost	k と同じく舌の奥を上あごの奥につけ、のどをふるわせながら（有声）パッと離す。「グ」の「ウ」をつけない。
/f/		fish	フー(歯とくちびる)	f elf、ph phone、ff waffle、gh laugh	上の前歯を下くちびる（の内側のふち）に軽くあて、そのすき間から息をこすり出す。のどはふるわせない（無声）。日本語の「フ」は上下のくちびるを近づけて出す音で歯を使わないので、別の音。くちびるはかまずに軽くふれるだけ。
/v/		van	ヴー(歯とくちびる)	v van、f of	f と同じく上の前歯を下くちびるに軽くあて、のどをふるわせながら（有声）息をこすり出す。くちびるがくすぐったくふるえれば正解。b はくちびるを閉じてはじく音なので、まったく別の音。
/θ/		thumb	スー(舌先を歯に)	th thin	舌の力をぬき、舌先を上の前歯の先（またはうら）に軽くあてるか、上下の歯のあいだに軽くはさんで、そのすき間から息だけを出す。かむ必要はなく、強く押しつけない。のどはふるわせない（無声）。s よりやわらかく、かすれた弱い音。サ行で代用しないこと。
/ð/		this	ズー(舌先を歯に)	th mother	θ と同じく舌先を上の前歯に軽くあて（または歯のあいだに軽くはさみ）、のどをふるわせながら（有声）息を出す。the, this, mother の th。かむ必要はない。日本語のザ行やダ行で代用しないこと。
/s/		sun	スー	s ask、c ice、ss kiss、sc scene	舌先を上の歯ぐきに近づけ（つけない）、舌のまん中にできた細いみぞに息を通して「スー」と鋭く出す。のどはふるわせない（無声）。せまいすき間をぬける「すきま風」のような音。日本語の「シ」は舌の位置がちがう別の音なので、see は「シー」ではなく「スィー」のつもりで。
/z/		zebra	ズー	s use、z zoo、zz buzz、x xylophone	s と同じ口の形で、のどをふるわせて（有声）「ズー」。マナーモードのスマホが机の上でふるえるときのような、ふるえ続ける音。日本語の「ズ」はことばのはじめで舌先がいったん歯ぐきにつく音（[dz]）になりやすいので、舌先を歯ぐきにつけず、音をとぎれさせずに出しつづける。

家庭・教室での印刷は自由です（再配布・販売はご遠慮ください）

発音記号の早見表 子音 ②

記号		キーワード	音のめやす	よくあるつづり（例）	口のコツ
/ʃ/		ship	シーッ	sh shy、t dictionary、ti nutrition、ss tissue	くちびるを少し丸めて前につき出し、舌先を s より少し後ろ（歯ぐきのうしろ）に近づけ、舌の前のほうを持ち上げて「シーッ（静かに）」。のどはふるわせない（無声）。日本語の「シ」はくちびるを丸めず、舌の広い部分を上あごに近づける音で、英語の sh とは少しちがう。
/ʒ/		treasure	ジュ	s treasure	sh と同じ口の形（くちびるを丸め、舌先は歯ぐきのうしろに近づける）で、のどをふるわせる（有声）。舌はどこにもつけずに出しつづける。treasure, vision の s。日本語の「ジ」はことばのはじめで舌がつく「ヂ」に近い音になりやすいので注意。
/tʃ/		chick	チッ	ch chin、tch watch、t statue、ti question	くちびるを少し丸め、舌先（と舌の前のほう）を歯ぐきの少し後ろにつけて息を止め、離しながら sh の音でこすり出す。のどはふるわせない（無声）。くしゃみの「ハクチッ」の「チ」。日本語の「チ」に近いが、英語はくちびるを丸める。
/dʒ/		jam	ヂュ	g gem、j jam、dge badge、ge garbage	ch と同じ口の形で、のどをふるわせて（有声）。舌をいったん歯ぐきの少し後ろにつけてから、こすりながら離す。jam, giraffe の音。
/m/		moon	ンー(口とじ)	m map、mm yummy、mb thumb	くちびるを閉じて、鼻から声を出す。おいしいときの「ンー」。語の最後でもくちびるをしっかり閉じて終える（日本語の「ン」のように口を開けたままにしない）。
/n/		nest	ンー(舌つけ)	n in、nn bunny	舌先を上の歯ぐきにしっかりつけて、鼻から声を出す。語の最後の n でも舌先をつけたまま終える（日本語の語末の「ン」は舌先がどこにもつかないことが多い）。
/ŋ/		ring	ン(舌のおく)	ng king、n angry	舌の奥を上あごの奥（軟口蓋）につけて、鼻から声を出す。舌先はどこにもつけない。日本語の「マンガ」の「ン」と同じ位置。sing は「シング」ではなく、終わりに「グ」を入れない（ただし finger, hungry のように g の音が残る語もある）。
/h/		hat	ハッ	h hen、wh who	のどの奥（声門）のすき間から息だけを出す音。口の形は次の母音の形のまま、舌もくちびるも使わない。のどはふるわせない（無声）。冷たい手に「ハーッ」と息をかけるときの音。日本語の「ヒ」「フ」は舌やくちびるを近づける別の音なので、he, who では近づけない。
/l/		lion	ル(舌つけ)	l elf、ll all	舌先を上の前歯のうしろの歯ぐきにしっかりつけたまま、舌の両わきから声を出す。日本語のラ行は舌先で歯ぐきを一瞬はじく音なので、はじかずにつけたままにするのがコツ。母音の前（light）は「明るい L」、語の最後や子音の前（ball, milk）は舌の奥も持ち上がる「暗い L」で、「ウ」や「オ」に近くこもって聞こえる。
/r/		rabbit	ゥル(舌つけない)	r red、rr arrow、rh rhythm	くちびるを少し丸め、舌先をどこにもつけずに声を出す。舌の形は2通りあり、舌先を少し後ろにそらせる「そり舌型」と、舌先を下げたまま舌のまん中〜奥を盛り上げる「もり上げ型」があって、どちらでも同じ R に聞こえる（どちらも舌の両わきは上の奥歯にふれる）。日本語のラ行のように舌先で歯ぐきをはじかない。はじめに小さく「ゥ」をつけるつもりで言うとうまくいく。
/w/		web	ゥワ	w web、u quiz、wh whale	くちびるを小さく丸めて前につき出し（舌の奥も持ち上がる）、そこから次の母音へすばやく開く。日本語の「ワ」はくちびるをあまり丸めないので、もっとしっかり丸める。wood, woman のように「ウ」の前でも w を落とさない。
/j/		yo-yo	ィヤ	y yes、i brilliant	舌の前のほうを上あご（硬口蓋）に近づけた「イ」の口から、すばやく次の母音へうつる。yes, yellow の y。year と ear のちがいに注意（year は「イ」の構えから始める）。

家庭・教室での印刷は自由です（再配布・販売はご遠慮ください）